

国立のぞみの園運営懇談会

1. 入所利用者の状況	1
2. のぞみの園における業務の取組状況	5
(1) 著しい行動障害を有する者等及び医療的ケアが必要になった者への支援について	
(2) ターミナルケアについて	
(3) 令和6年度 調査・研究の実施状況	
(4) 令和6年度 セミナー・研修会等の実施状況	
(5) 令和6年度 実務研修等の実施状況	
(6) 令和6年度 援助・助言の実施状況	
(7) 診療所の見直し・寮再編の実施状況	
(8) 能登半島地震における被災者の受け入れについて	
3. 令和7年度予算（案）について	15
4. 各種ウイルス等の感染状況等（令和6年度下半期）	16
5. 事故等の報告について	17

令和7年3月

1. 入所利用者の状況

令和7年2月28日現在

○ 令和6年度の入所利用者の状況は、入所が9人、退所が29人であり、2月28日現在の在籍者は155人となっている。

○ 退所者29人のうち、施設等(16)の内訳は、グループホーム(12)、障害者支援施設(4)であり、死亡(12)の内訳は、肺炎(7)、大腸がん(1)、消化管出血(1)、呼吸不全(2)、心不全(1)となっている。

前年度末在籍者		入所	退所					今年度2月 末日在籍者
			家庭	施設等	死亡	その他 (契約解除)	計	
合計	175	9	1	16	12		29	155
内 訳	旧コロニーからの利用者	133	0	2	12		14	119
	行動障害等	37	7	11(1)			11(1)	33
	矯正施設等退所者	5	1	3			4	2
	医療的ケア	0	1				0	1

※ 行動障害等の退所の人数については、入所支援からのぞみの園GH支援へ変更した利用者を含んでいるため、()書きで整理している。

入所利用者の概況

令和7年2月28日現在

- 入 所 者 数 : 155人(男性94人、女性61人)
- 平 均 年 齢 : 62.8歳 (21歳～91歳)
- 平均入所期間 : 35.6年
- 障害支援区分(区分3～6)の平均 : 5.9
- 出身都道府県 : 31都道府県(110区市町村)

入所者の内訳／年代

		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	平均年齢
①旧コロニーからの入所利用者		0人	0人	2人	11人	27人	79人	119人	71.1歳
障害者総合支援法に基づく 有期認定入所利用者	②行動障害等	14人	8人	5人	5人	1人	0人	33人	35.3歳
	③矯正施設等 退所者	1人	0人	1人	0人	0人	0人	2人	30.5歳
	④医療的ケア	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	51.0歳
合計		15人	8人	8人	17人	28人	79人	155人	62.8歳
(割合)		(9.7%)	(5.2%)	(5.2%)	(10.9%)	(18.1%)	(50.9%)	(100%)	

入所期間

	10年未満	10以上 20年未満	20年以上30年未満	30年以上	計	平均入所期間
①旧コロニー	2人(1.6%)	0人(0.0%)	9人(7.5%)	108人(90.9%)	119人(100%)	46.1年
②行動障害等	33人(100%)	—	—	—	33人(100%)	7ヶ月
③矯正施設等	2人(100%)	—	—	—	2人(100%)	5ヶ月
④医ケア等	1人(100%)	—	—	—	1人(100%)	1ヶ月
計	38人(24.5%)	0人(0.0%)	9人(5.8%)	108人(69.7%)	155人(100%)	35.6年

※ 旧コロニー10年未満の2人については、再入所によるもの。

障害支援区分

	入所者数	性別	障害支援区分(単位:人)					平均障害 支援区分
			区分2以下	区分3	区分4	区分5	区分6	
①旧コロニー	119	男 65				2	63	6.0
		女 54					54	
②行動障害等	33	男 26				4	22	5.8
		女 7				2	5	
③矯正施設等退所者	2	男 2		1	1			3.5
		女 0						
④医療的ケア	1	男 1				1		5.0
		女 0						
計	155	男 94		1	1	7	85	5.9
		女 61				2	59	

(参考)

のぞみの園で提供するサービス

○ 障害者総合支援法に基づくサービス

令和7年2月28日現在

	サービス名	現員	サービス内容
居宅支援	施設入所支援	155名	施設に入所して、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
	共同生活援助 (グループホーム)	26名	共同生活を行う住居で、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
	日中サービス支援型 共同生活援助	10人	共同生活を行う住居で、日中活動、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
日中活動	生活介護	211名	日中において、入浴、排せつ、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供する
	自立訓練(生活訓練)	2名	食事や家事等日常生活能力を向上させるための支援を行うとともに、日常生活上の相談支援を行う
	就労継続支援B型	18名	就労や生産活動等の機会を提供し、その知識や能力の向上を図る訓練を行う
地域支援	短期入所	61名 (登録者)	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間施設に入所し、入浴、排せつ、食事の介護等を行う
	相談支援	—	障害のある人、その保護者、介護者などからの相談に応じ、必要な情報提供等を行う
	地域生活支援事業 (日中一時支援)	34名 (登録者)	日常介護している家族の一時的な負担軽減と利用者の日中活動の場を提供を行う

○ 児童福祉法に基づくサービス

	サービス名	現員	サービス内容
療育支援	児童発達支援	80名 (登録者)	未就学児(2～6歳)を対象に、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を行う
	放課後等デイサービス	33名 (登録者)	小学生～高校生を対象に、学校授業終了後において、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進等を行う
	保育所等訪問支援	226名 (登録者)	保育所、幼稚園、学校や施設などを訪問し、集団生活に適応できるように専門的な支援を行う

2. のぞみの園における業務の取組状況

(1) 著しい行動障害を有する者等及び医療的ケアが必要になった者への支援について

● 著しい行動障害等を有する者の受入れ及び地域移行の状況

令和7年2月28日現在

項目/中期・年度	第2期	第3期	第4期	第5期						令和6年度下半期の取組状況
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	合計	
受入れ者数	4	14	53	25	7	—	—	—	32	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の質を向上させるため、スーパーバイザーの招聘や職員の実務研修等を実施 ・地域で先進的に活動する団体や国立施設と事業連携 ・障害の程度や特性に応じた環境調整を実施
移行者等数	1	6	40	12	10	—	—	—	22	

※令和5年度については、能登半島地震における被災者10名（行動障害）を含む。

● 矯正施設を退所した知的障害者の受入れ及び地域移行の状況

項目/中期・年度	第2期	第3期	第4期	第5期						令和6年度下半期の取組状況
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	合計	
受入れ者数	16	19	22	3	1	—	—	—	4	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性をアセスメントし、環境要因を調整する支援（標準的支援）を実施 ・国立施設と連携し、事例を挙げ検討会を実施
移行者等数	13	17	24	1	4	—	—	—	5	

● 医療的ケアが必要になった者の受入れ及び地域移行の状況

項目/中期・年度	第2期	第3期	第4期	第5期						令和6年度下半期の取組状況
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	合計	
受入れ者数	—	—	—	0	1	—	—	—	1	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県内の相談支援事業所、施設、団体等へ広報活動を実施 ・のぞみの園HP等へ医療的ケア支援の取組みについて情報発信
移行者等数	—	—	—	0	0	—	—	—	0	

(2) ターミナルケアについて

重度・高齢化が顕著となっているのぞみの園において、住み慣れた場所・環境で最期を迎える「ターミナルケア」を実践するとともに、そのノウハウについて全国の障害者支援施設への情報発信に取り組むこと
(第5期中期目標(抜粋))

○ 令和6年度下半期の取組状況

- ・ 意思決定支援/ACP(人生会議: Advance Care Planning)システムの実施(意思決定支援/ACPに基づくヒアリングシートの実施)
- ・ ACP委員会(気づき期・看取り期)開催 気づき期4回 看取り期1回
- ・ GHの看取りに必要な外部医療機関(診療所、訪問看護・リハ)との連携
- ・ GHの看取り時に関わる介護保険との調整
- ・ ターミナルケアの実践例 あかしあ寮2人・ひなげし寮1人
- ・ 家族への継続的なアプローチ(意思決定支援/ACPに関するヒアリング、看取り希望時の同意)
- ・ 意思決定支援/ACPの一般寮への展開 気づき期1回 看取り期0回
- ・ 利用者意思確認や利用者本位の支援に関するコンサルタント 5回

○ 今後の予定

- ・ ターミナルケアの実践を継続
- ・ 意思決定支援/ACPの質の向上(本人の表情や動作を基にした記録)
- ・ 意思決定支援/ACPに基づいた個別支援計画(幸せや喜びを増やすこと)
- ・ 意思決定支援/ACP一般寮への展開を継続
- ・ のぞみの園(園内・地域)版マニュアルの順次更新
- ・ 全国版 ターミナルケアマニュアル 厚労科研「終末期」作業班との連携

(3) 令和6年度 調査・研究の実施状況

令和6年度 調査・研究テーマ

国からの委託

＜国立のぞみの園が主体となって取り組んでいる研究＞

①【厚生労働科学研究 / 厚生労働省】

強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究

②【厚生労働科学研究 / 厚生労働省】

障害者支援施設や共同生活援助事業所、居宅支援における高齢障害者の看取り・終末期の支援を行うための研究

③【厚生労働科学研究 / 厚生労働省】

障害者福祉施設等における身体拘束廃止・防止の取組推進に向けた調査

ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)からの委託

④【東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)プロジェクト、本部インドネシア】

東南アジアにおける発達障害者に対する保健医療政策の実態把握と改善に関する研究 ※詳細次ページ参照

のぞみの園において実施

⑤弄便に関する研究

⑥高齢期の発達障害者を地域でより効果的・効率的に支援するための体制づくり

⑦認知症(疑い含む)を発症した知的・発達障害者に見られる行動・心理症状への支援に関わるアドミニストレーター養成について

⑧障害福祉サービスにおけるVineland- II とICFを用いたアセスメント及びモニタリングに関する意識調査

⑨利用者・利用者家族に国立のぞみの園が果たしてきた機能に関する歴史的研究

東南アジアにおける発達障害者に対する保健医療政策の実態把握と改善に関する研究（終了）

《概要》

- ERIA（東アジア・ASEAN経済研究センター）の委託研究として、2021年12月から2024年8月まで日本の国立のぞみの園とインドネシアのLSPR大学が協力して、アセアン各国の発達障害者支援に関する現状や課題・ニーズを確認した。

東南アジアにおける発達障害者に対する
保健医療政策の実態と課題（仮訳）

●保健医療政策等に関する調査

（方法）アセアン加盟10か国の保護者（約50人）、研究者（約20人）、支援者（約50人）、行政官（約20人）にインタビューを実施し、優先調査3か国（インドネシア、フィリピン、ベトナム）＋その他加盟7か国の現状と課題点を把握した。



共同著者・監訳者：林 有子
監訳：スズキ・マコト・ヘレン・マコト

ERIA LSPR Institute of
Developmental Disabilities

（結果）アセアン全体の発達障害者支援のニーズとして、「専門的人材の育成」「関係者間の知見・情報共有」「当事者・家族の参画」「社会的な理解啓発」があり、日本には特に“教育や高齢期支援”についての先進的な取り組み（健康、住まい、日中活動など）についてのモデル提示、協働が期待されていた。

●家族支援プログラムの共同開発

（方法）アセアン圏域内では、発達障害者支援に関して専門的な支援を受けられる機会が少なく、ICTを活用して国内外の専門家から家族が助言を受けていた。このような現状を踏まえ、日本で既に開発・普及が行われている“トレーニング（知識の提供）、メンタリング（仲間との出会い）、コーチング（育児の励まし）”を優先調査3か国の家族に試行し、参加者の感想を踏まえたガイドブック作成を行った。

東南アジアにおける発達障害を持つ子どもの保護者向けの
ペアレント・トレーニング、ペアレント・メンタリング、
およびコーチングガイドブック（仮訳）



共同著者・監訳者：Rudi Salsandra・Nikmaty・Lynette Lee・Corinne
片上 美穂・Nurhuda Dzikriyanti・監訳者：林 有子・スズキ・マコト

ERIA LSPR Institute of
Developmental Disabilities

（結果）アセアン全体が抱える①島嶼やインフラ未開発等アクセス不良の問題、旧宗主国が異なることによる専門家教育の相違・食い違いといった課題があるが、一定の効果が確認されている日本のプログラムをベースとして導入することによって、アセアン内での地域格差の問題が解消していくことができると期待されていた。また、プログラム開発の過程で、家族が支援を受けやすくなるために、発達障害に対する社会的な理解も重要であると優先調査3か国の行政担当者が認識し、次なるアクションへの道筋が明確になった。



《展開》

- 2025年（夏頃を予定）から2029年にかけて、JAIF（日アセアン統合基金）プロジェクトとして、上記の「専門的人材の育成」「関係者間の知見・情報共有」「当事者・家族の参画」「社会的な理解啓発」に取り組む予定（申請はインドネシア社会省、実施は国立のぞみの園 & LSPR大学、マネジメントは国際機関のERIA）
- 2024年にインドネシア：LSPR大学と日本：国立のぞみの園の間で、研究・出版等に関する連携協定を締結。LSPR大学が行う特別支援教育、障害者の就労支援、グループホームの運営等について国立のぞみの園が協力する他、LSPR大学（マスコミ関係者の養成）の行っている情報発信の知識・技術を当法人でも学び、技術協力を求めていく予定。

成 果 物 の 周 知

○ ニュースレターの発行 発行回数 年4回

第80号【特集】発達障害児・者への支援(令和6年4月1日発行)

第81号【特集】人材の養成と活用(令和6年7月1日発行)

第82号【特集】高齢期を迎えた知的障害のある人の地域移行(令和6年10月1日発行)

第83号【特集】強度行動障害支援と住まい(令和7年1月1日発行)

○ 調査・研究の成果として研究紀要の発行 年1回 (令和6年12月)

・研究紀要第17号 掲載論文 7件

(内訳) 強度行動障害者への支援 2件 高齢・知的発達障害者への支援 3件 発達障害児・者への支援 2件

○ 学会や研修会、講演会等の場で、調査・研究の成果を発表(令和6年10月1日現在)

・学会報告 10件 (日本認知症ケア学会1件、日本介護福祉学会1件、日本発達障害学会4件、日本社会福祉学会3件、群馬県知的障害者福祉協会研究発表会1件)

・講演等 57回

・執筆・投稿等 3回

・フェイスブックを通じた発信 14回

○ 調査・研究の成果物をマニュアル等現場で活用できる冊子とし有償刊行物として頒布 (現在:9冊を頒布中)



○ ホームページ、機関リポジトリ、SNS等による情報発信

・ 国立のぞみの園ホームページ

国立のぞみの園がこれまでに実施した調査・研究の報告、実践等をまとめたニュースレター、国際的な調査研究の取り組みなどを掲載しています。



・ 機関リポジトリ(国立のぞみの園機関リポジトリ)

国立のぞみの園の実践・研究成果についてキーワードによる論文検索等が可能です。



・ 国立のぞみの園 研究部のページ (Facebook)

研修会の開催、新たな記事の掲載などをお知らせします。



(4) 令和6年度 セミナー・研修会等の実施状況

令和7年2月28日現在

	名称及びタイトル	開催地	参加者数	満 足 度		
				合計	満足	やや満足
1	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修（指導者研修））1	WEB	64人	100%	78.1%	21.9%
2	強度行動障害支援者養成研修（実践研修（指導者研修））1	WEB	53人	98.1%	83%	15.1%
3	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修（指導者研修））2	WEB	55人	98.2%	90.9%	7.3%
4	強度行動障害支援者養成研修（実践研修（指導者研修））2	WEB	56人	100%	91.1%	8.9%
5	強度行動障害支援における中核的人材養成研修（東日本）	WEB	47人	集 計 中		
6	強度行動障害支援における中核的人材養成研修（西日本）	WEB	48人			
7	広域的支援人材養成研修（情報アップデートDay since 2024）	東京都	93人	92.9%	62.5%	30.4%
8	自閉症支援のためのワークショップ	のぞみの園	15人	集 計 中		
9	知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会	WEB	141人			
10	『国立のぞみの園セミナー』 「知的・発達障害者のしあわせ高齢期の過ごし方」	秩父学園 (埼玉県)	41人	97.3%	83.8%	13.5%
11	『国立のぞみの園セミナー』（認知症） 知的・発達障害者の認知症支援 認知症にまつわる基礎知識	WEB	385人	89.2%	53.5%	35.7%
12	障害者の福祉的就労と日中活動サービスの支援のあり方について ～個別支援の充実と社会参加を目指して2024～	WEB	216人	93.7%	59.2%	34.5%
13	『国立のぞみの園セミナー』（意思決定支援） 「障害者支援関係施設等における看取りの現状と導入に向けた取り組み」	WEB	3/3～3/17 開催中			
	合計／平均	1104人		95.7%	74.2%	21.5%

※ 満足度については、5段階中上位2段階（満足・やや満足）を足した評価である。

〔実務研修者及び実習生の受入実績〕

配属コース	受入れ人数
実務研修者	84人
実習生	120人
合 計	204人

〔実務研修者実績〕

配属コース	受入れ人数
高齢知的障害者支援コース	7人
行動障害者支援コース	58人
矯正施設等を退所した知的障害者支援コース	9人
発達障害児支援コース	10人
合 計	84人

〔実習生受入実績〕

単位実習名	校数	受入れ人数
相談援助	10校	18人
保 育	34校	88人
その他	5校	14人
合 計	49校	120人

(5) 令和6年度 実務研修等の実施状況

① 実務研修（派遣）

令和7年2月28日現在

法人名	研修期間	職員数
社会福祉法人北摂杉の子会	11月18日～ 11月22日【5日間】	2名
社会福祉法人はるにれの里	9月30日～ 10月 4日【5日間】	2名
独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター	9月30日～ 10月 4日【5日間】	2名
社会福祉法人 京都ライフサポート協会	10月15日～ 10月21日【7日間】	2名
社会福祉法人侑愛会	10月28日～ 11月 1日【5日間】	2名
社会福祉法人南山城学園	11月25日～ 11月30日【6日間】	2名
発達障害サポートセンターピュア	3月17日～ 3月19日【3日間】	2名

② 実務研修（受入）

法人名	研修期間	職員数
社会福祉法人秋田県社会福祉事業団	令和6年4月1日～令和7年3月31日	1名
社会福祉法人林檎の里	令和6年4月1日～令和6年9月30日	1名

③ 人事交流

法人名	研修期間	職員数
社会福祉法人旭川荘	令和6年4月1日～令和7年3月31日	1名
国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園	令和6年4月1日～令和7年3月31日	1名

(6) 令和6年度 援助・助言の実施状況

障害者支援施設等の求めに応じて、行動障害等を有する者の支援や重度化・高齢化した知的障害者の支援技術について、障害者総合支援法に基づく新しい事業体系への移行、知的障害者の健康管理や医療支援などに関して援助・助言を行っている。

令和7年2月28日現在

内 容 別	援助・助言		講演・講師派遣等		
	件数	援助・助言等の内容	開催数	参加者数	備 考
総合支援法(法制度)に関すること	26	報酬改定について等	24	1,743	令和6年度報酬改定について等
地域移行・地域支援に関すること	4	地域移行への取組みについて等	0		
高齢知的障害者支援に関すること	14	支援方法等	18	1,750	看取りや終末期支援について等
行動障害等を有する者の支援に関すること	72	支援方法等	51	2,379	行動障害の理解と対応について等
矯正施設を退所した知的障害者支援に関すること	1	支援方法等	9	399	支援について、事例検討会議等
発達障害児・者の支援に関すること	2	相互理解について等	15	352	困難事例検討会議等
障害者の医療支援に関すること	4	医療行為への確認・同意等	17	40,923	感染症対策について等
就労支援に関すること	2	支援方法等	0		
児童発達支援に関すること	1	検査の活用について等	8	618	ことばの発達について等
権利擁護(虐待防止含む)に関すること	5	身体拘束解除への取組み等	21	1,528	アンガーマネジメントについて等
意思決定支援に関すること	2	保護者へのアプローチについて等	3	102	意思決定支援について等
介護保険に関すること	0		0		
事業運営に関すること	11	BCP作成について等	0		
のぞみの園利用に関すること	115	有期限入所について等	0		
調査・研究に関すること	6	刊行物について等	1	125	職員研究発表会助言者
養成・研修に関すること	7	中核的人材養成研修について等	0		
職員派遣(講師・コンサル等)に関すること	43	講師派遣について等	0		
その他	0		1	98	施設紹介等について
計	315		168	50,017	

援助・助言の件数 483件

(7) 診療所の見直し・寮再編の実施状況

【看護師の生活寮への配置転換等による効果・変化】

【地域医療機関との連携（入院の状況）】

入院病床の廃止に伴い入院が必要なケースは地域医療機関と連携し受入れを依頼している。R6.4月～R7.2月末の実績

R6年4月～R7年2月末		
地域医療機関との連携（入院状況）		
No	医療機関名	件数
1	高崎総合医療センター	13
2	高崎中央病院	12
3	黒澤病院	5
4	第一病院	3
5	サンピエール病院	2
6	関越中央病院	2
7	井上病院	1
8	群馬大学医学部附属病院	1
9	前橋日赤病院	1
10	高瀬記念病院	1
11	たかまえ病院	1
12	榛名荘病院	1
合計		43

No	入院時の主たる疾患名	件数
1	肺炎等の呼吸器系疾患	18
2	腸閉塞等の消化器系疾患	12
3	骨折	5
4	頭部外傷・意識障害	4
5	膀胱瘻造設	2
6	胃瘻造設	1
7	貧血	1
合計		43

【支援と看護の連携会議開催実施状況】

第10回 10月1日(火) 第11回 11月5日(火) 第12回 12月17日(火)
 第13回 1/14、2/18コロナ等で中止 3/11開催予定
 【成果物】
 ・喀痰吸引器点検と配置 薬箱各寮等配置(GH含む)

○各寮ラウンド

- ・ 疾病予防に関する支援との連携
- ・ 体調不良者の早期発見と対応
- ・ 感染症小委員会への参加(研修講師含む)
- ・ 感染症発生時の技術的バックアップ
- ・ 医療処置実施(座薬や軟膏処置など)
- ・ 外部医療機関受診時の医師との情報交換の質の向上

○強行寮

- ・ 検査検診時の看護師サポートによる本人の負担軽減
- ・ 精神科受診時の医師との橋渡し
- ・ 衛生面(耳垢、つめ、歯)の確認と対応による向上

○あかしあ寮(寮再編)

- ・ 医療的ケアの24時間対応(たん吸引や経管、CV等の実施)
- ・ 高齢虚弱者の疾病の早期発見や健康管理
- ・ 外部医療機関退院後、あかしあ寮を一時利用することによる、病気等回復状況、食事摂取状況、排泄状況、コミュニケーション関連の見極めと、在籍寮への伝達。また、機能低下によるあかしあ寮への転寮の見極め

【定時報告以外のオンコール・緊急要請状況(令和6年度下半期)】

宿直日	時間	当直者	担当医	内容
11月10日	6:35	宇野	成田	SPO2値低下者の対応について
11月14日	21:00	倉澤	成田	発熱及び血圧低下者の対応について
12月5日	20:00	倉澤	瀬川	頭部外傷者の対応について
12月19日	2:06	高橋	成田	看取り対象者の報告について
12月24日	6:40	新後閑	瀬川	転倒・顔面裂傷者の対応について
12月28日	7:05	伊豆山	瀬川	発熱・嘔吐者の対応について
12月29日	7:23	篠崎	成田	転倒・顔面打撲者の対応について
1月2日	9:30	新後閑	成田	心肺停止者の対応→死後診察
1月4日	22:00	登坂	成田	転倒・頭部打撲者の対応について
1月11日	18:00	石坂	瀬川	インフル陽性者の全身浮腫について
1月23日	21:25	中澤	瀬川	医ケア者(低血糖)の対応について
1月23日	23:12	中澤	瀬川	発熱・嘔吐者の対応について
1月27日	0:21	登坂	成田	腹痛・嘔吐者の対応について
2月8日	22:46	石坂	成田	救急搬送の報告(誤嚥性肺炎疑い)

(8) 能登半島地震における被災者の受け入れについて

● 受入理由

令和6年1月1日に発生した能登半島地震において、被災した施設の利用者10名を厚生労働省の要請により有期限の施設入所利用者として令和6年3月12日に受け入れた。また、被災時に精神科病院に入院していた重度の知的障害者1名を令和6年8月5日に受け入れた。

● 現在の被災施設の状況等

施設	石川県障害者支援施設
現在の状況	被災施設の利用者は県内外の他施設で避難生活を継続中。被災施設は、断水に対する給水工事(応急復旧工事)が行われたが、下水道や建物改修工事など、その後の工事の見通しは立っていない(利用者が戻って生活できる状況にない)。なお、昨年9月に発生した奥能登豪雨による被害はなし。

● 現在の利用者(11名)の状況

利用者11名については、各々の障害特性に応じてサービスを提供している。

① 一般寮で生活している利用者(2名)は、スポーツ等のテレビ鑑賞や健康増進プログラム(お手玉入れなど)を楽しんで行き、意欲的に日中活動に参加することで身体機能や健康診断結果の改善が見られている。口腔ケアにも注力し、歯科衛生士による巡回指導や必要に応じて歯科受診を行っている。

② 特別支援寮で生活している利用者(8名)は、環境要因を調整した支援として、居室に提示してあるスケジュールボード(1日の活動の予定)を活用し、日中活動(自立課題作業、歩行)、余暇活動(散歩)、食事など視覚的な手がかり(手順書)を中心に日々の生活をスムーズに送っている。1名は内科系疾患により、昨年の10月から外部医療機関に入院している。

③ グループホームで生活している利用者(1名)は、平日の日中はのぞみの園の生活介護に通所し、自立課題や散歩等の活動を行っている。土日祝日は、利用者からの意思(要望)を踏まえ、ドライブや買い物などを実施し、楽しみを持ちながら生活している。なお、事前に予定を伝えることで安心して過ごしており、大きな不安となることはみられなくなっている。

● 受け入れてからの取組状況

・利用者やそのご家族も交えたオンライン会議を開催し、利用者との対面や会話の機会を設けるなど、利用者やご家族に寄り添いながら支援を継続している。

・また、昨年9月に発生した奥能登豪雨では、保護者に電話で連絡するなど、利用者やそのご家族の安心安全に努めている。

・なお、利用者は落ち着いた生活を送っているが、地域移行に向けては、現在も施設の再建の見通しが立っておらず調整できない状況が続いている。

3. 令和7年度予算(案)について

- 令和7年度の予算(案)は、前年度予算と比較して93百万円の減額となっている。
- 減額の主な要因は、入所利用者数の減等（介護給付費・訓練給付費等）によるものである。

(単位:百万円)

項 目		令和7年度予算(案)	令和6年度予算	令和6年度決算見込
収入の部	運営費交付金	1,156	1,231	1,231
	うち、退職手当を除く	1,156	1,163	1,162
	うち、退職手当	0	68	69
	事業収入 介護給付費・訓練等給付費等	1,343	1,364	1,568
	診療収入	116	116	81
	実習生等受入負担金等	40	40	60
	施設整備費補助金	0	0	113※
	国庫補助金収入等	0	0	34
収入計		2,658	2,751	3,086
支出の部	役員及び管理部門に係る人件費	172	175	164
	一般管理費	52	52	69
	業務経費	2,434	2,524	2,572
	施設整備費補助金	0	0	113
	支出計	2,658	2,751	2,919
収 支 差		0	0	167

※令和6年度補正予算

4. 各種ウイルス等の感染状況等（令和6年度下半期）

令和7年2月28日現在

【令和6年度下半期】

○新型コロナウイルス 合計 18名

職 員 12名
利用者（施設入所） 6名
利用者（GH） 0名

○インフルエンザウイルス 合計 73名

職 員 32名
利用者（施設入所） 30名
利用者（GH） 10名
日中一時支援 1名

※集団感染の発生（保健所へ報告）

やまぶき寮 職員3名 利用者12名（12/31～1/12 寮閉鎖）

くろまつ寮 職員4名 利用者18名（1/4～1/23 寮閉鎖）

○ノロウイルス及びノロウイルスによる感染が疑われる症状 合計 11名

職 員 7名
利用者（施設入所） 4名（うち、ノロウイルス確定診断1名）
利用者（GH） 0名

※集団感染の発生（保健所へ報告）

つぐみ寮 職員7名 利用者4名（1/27～2/8 職員は他寮との交流制限）

5. 事故等の報告について

1. 事故内容等

令和7年2月28日現在

事故内容	骨折	打撲・創傷	誤与薬	所在不明	誤嚥	その他	計
件 数	9	24	10	0	0	2	45
【事故の種類】 骨 折(9)： 転倒(2)、転落(4)、原因不明(3) 打撲・創傷(24)： 転倒による創傷(3) 他害による創傷(6)、原因不明による創傷(4)、 転倒による打撲(7)、転落による打撲(2) 原因不明による打撲(2)、 誤 与 薬(10)： 誤薬(5)、与薬忘れ(4)、処方箋間違いによる与薬漏れ(1) そ の 他 (2)： 異食(2) 【取組内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・事故案件については、事故後速やかに保護者及び高崎市、援護者に報告 ・事故防止対策委員会（毎月）において、事故の検証及び再発防止策を検討 ・今年度も事故防止対策強化月間（11/1～11/30）を設け事故防止対策に努めた 							

2. 不適切な支援事案

令和7年2月28日現在

報告日	内容
R6. 6. 11	心理的虐待の疑いのある事案が起きたため、高崎市障害者虐待防止センターへ通報 その後、関係機関等へ報告し、現在、援護者からの結果待ち。
R6. 10. 20	性的虐待の疑いのある事案が起きたため、高崎市障害者虐待防止センターへ通報 その後、関係機関等へ報告し、調査の結果、虐待として認定されなかった。
R7. 1. 23	身体的虐待の疑いのある事案が起きたため、高崎市障害者虐待防止センターへ通報 その後、関係機関等へ報告し、調査の結果、虐待として認定されなかった。
【取組内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・臨時の虐待防止対策委員会を開催し、全ての職員に対して虐待防止の研修や注意喚起を行うなど、未然防止のための取組みを講じる。 ・虐待防止対策について、外部有識者による寮等の巡回や指導・助言を実施した。 	